

地球市民学科4年 中田 裕加里さん（学業奨励奨学金）

—どのような学生生活を送っていますか。

地球市民学という多角的な視点から社会や人について学ぶため、「自分の生き方」を追求することを軸とした学生生活を送っています。生きることに対して疑問を持ち、これまで経験したことのない多くの活動に取り組んできました。何か大きなことを成し遂げるといっても、自分自身や他者と向き合いながら挑戦し、どうすれば新たなものに結びつけることができるか試行錯誤しています。行動する過程で「表現する」「伝える」ことの大切さを知り、“物を語る”をテーマに、自分の心の内を表現するプロジェクトに取り組んでいます。地球市民学を中心に、哲学、文学、社会学、情報学、司書・学校司書課程など幅広く学び、成績優秀者の一人として表彰されました。

—課外活動ではどのようなことに取り組んでいますか。

カンボジア王国SDGsインターンシップに参加し、日本全国から集まった学生と一緒に、フェアトレードコーヒーの新しい販売案を企画し、Three Corner Coffee Roaster代表取締役の方に提案しました。参加のきっかけは、自分の生き方に迷いが生じ、未知のものに触れて自分自身を変えるためでした。初対面の人と活動し、未知の文化や歴史、今そこで生きている人の考え方を目の当たりにすることにより、知ることや学ぶことのできる幸せ、人と出会い考える幸せなど、「幸せ」を体感しました。

また、学生会執行委員会では委員長を務め、組織の改善のため詳細な資料を作成したほか、クリスマスパーティーやガーデンパーティーの局長、清泉祭などのイベントの運営にも積極的に携わり、課題についても多くの気づきがありました。学生会費の周知と案内の方法、委員会と学生、大学の結びつきについて改善を提案した際には、先生方をはじめ、職員、保護者、学生の方々などから多くのご協力をいただきました。

学生会執行委員会活動 Instagram



インターンシップのグループメンバーとの1枚。右端が中田さん



—奨学金をどのように活用したいと考えていますか。

発展協力会からいただいたご支援は、前述のプロジェクト活動やボランティア活動に活用したいです。「誰もが自分の心の内を表現できる」「他者と共に生きることに向き合う」社会について改めて考え、自分の生き方を変えていきたいと思っています。「表現」して伝えることにより、物語を多様な形にしたいと考えています。カンボジア王国での経験や学びを生かし、グループメンバーとの日本でのフリーマーケット計画や、個人では体験記をまとめたものを本にすることを計画しています。また、いずみ文芸賞への作品応募など、多くの挑戦を続けたいと思っています。



ガーデンパーティーにて「いずみ文芸賞」（第二席）の賞状を授与される中田さん

—将来の夢や、後輩たちへ向けてのアドバイスやエールをお願いします

これからも自分の生き方を問い続けて人やものの結びつきについて考え、より温かい繋がりを築ける人になりたいと思います。家族や友人、お世話になった方々の存在は大きく、どのような時も生と死が隣り合わせであることを忘れずにいようと思います。そして、国内外、大小問わず、心に触れるものを見つけ、自分の意思を形に表していきたいです。悩んで止まる自分と進む自分、どちらもいて良いのではないのでしょうか。誰しも、言葉にしづらかったり、行動にできなかつたり、自分が何を考えているかわからなくなったりすることがあります。その状態をマイナスだと考えるのではなく、自分の行動の原点とするのも自分次第です。

ガーデンパーティー局長を務めたイベントで、先輩方と撮った1枚。右から2番目が中田さん

